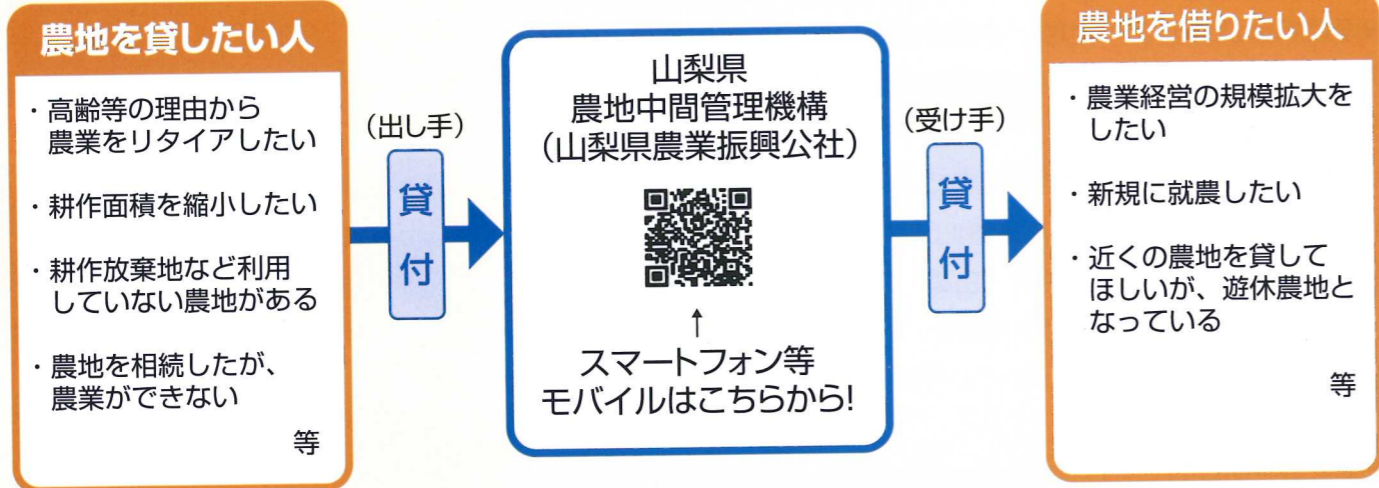


農地中間管理事業 をご活用ください!

農地中間管理事業とは、中間管理機構（県農業振興公社）が農業のリタイアを考えている方々等から農地を借り受け、農業経営の規模拡大や新規就農希望者等へ橋渡しする事業です。

「農地を貸したい」「農地を借りたい」「制度を詳しく知りたい」という方はお気軽にご相談ください!

「農地中間管理事業」の仕組み



※設定した契約期間が満了すると、農地は地主に確実に返還されます。(継続することも可)
※条件によっては、お借りできない農地もありますので、ご了承ください。

貸し手の方へのメリット

- ★確実に賃料が支払われます!
- ★転貸先と個別に交渉する必要がなくなります!
- ★国の協力金が支払われる場合があります!

借り手の方へのメリット

- ★必要な場合は、使い勝手の良い農地へ整備し、貸し付けます!
- ★賃借地が複数の場合でも賃料支払先が一つで済みます!
- ★登記簿謄本は中間管理機構等で取得します!

相談窓口

各市町村（農政担当又は農業委員会）

- ・(公財)山梨県農業振興公社 **055-232-2760**
- ・山梨県農政部担い手・農地対策室 **055-223-1596**
- ・中北農務事務所(地域農政課) **0551-23-3078**
- ・峡東農務事務所(地域農政課) **0553-20-2708**
- ・峡南農務事務所(地域農政課) **055-240-4113**
- ・富士・東部農務事務所(地域農政課) **0554-45-7825**
- ・南アルプス市農業振興公社 **055-282-7403**
- ・北杜市農業振興公社 **0551-25-2885**
- ・中央市農業振興公社 **055-269-2411**
- ・J A フルーツ山梨 **0553-32-6525**
- ・J A ふえふき **055-265-1607**
- ・J A ふじかわ **0556-22-6311**
- ・J A こま野 **055-283-7134**



山梨県普及センターだより

Yamanashi Agricultural Extension Service Information

- 編集/発行 山梨県総合農業技術センター ■ 住所 甲斐市下今井1100 〒400-0105
- Tel.0551-28-2496 ■ Fax.0551-28-4909
- URL:http://www.pref.yamanashi.jp/sounou-gjt/
- E-mail:sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

No.35
平成28年12月20日発行



農業革新 支援スタッフ

大豆の生産安定に向けて 効果的な除草体系の検討

北巨摩地域の大豆栽培においては近年「マルバルコウ」「アレチウリ」「エノキグサ」等の雑草の発生が問題となっており、生育期の雑草対策が課題となっていました。

こうした中、当センターと中北農務事務所では大豆の生育期に使用可能な非選択性除草剤について、除草効果の検討を行いました。

播種後約40日を経過した7月下旬、北杜市内において散布を行いました。散布は通常の薬剤散布に利用している散布機の前面に吊り下げノズルを装着して行いました。

一部、作物への付着により下葉が黄変した程度で、その後の作物の生育には影響はなく、優れた除草効果を確認することができました。

後日実施した動力散布機を活用した散布においても優れた除草効果を示し、この除草剤を導入する機運が高まっています。

散布時の
雑草発生
状況



薬剤散布の
様子



散布
7日後の
状況



県内における飼料用米の利用推進

家畜の飼料向けにお米の利用が推進されていますが、県内でも、採卵鶏農家において飼料用米の利用が進んでいます。

県の畜産試験場では鶏への給与試験を行い、生育や卵生産に影響はなく配合飼料中のトウモロコシをお米に置き換えても問題がないことを確認し、県内養鶏農家へ飼料用米の推進を図っています。

今年度は2戸の稲作農家から約3.7tの籾米を受入れ、飼料用米の給与を開始しています。トウモロコシを米に置き換え場合、配合する他の材料の量を調整し、安定して美味しい卵が生産出来るよう工夫しています。

県内畜産農家における飼料用米の需要は徐々に増えてきていることから、稲作農家や農協等関係機関と連携して、地元産粗飼料の利用拡大を進めていきます。



搬入された籾米



採卵鶏への給与

米作り名人は誰だor誰でしょう？



県内屈指の米所JA梨北管内で生産される「梨北米」ブランドは、(財)日本穀物検定協会による米の食味ランキングでは、平成27年産で4年連続「特A」に評価されるなど、県内外で高く評価されています。

JA梨北では品質のさらなるレベルアップを目指して、「2016梨北米食味コンテスト」が開催されています。10月下旬からエントリーが始まり11月下旬頃には集計され、12月14日に表彰式を行いました。

審査は成分分析機を使って行われ、成績優秀者には、「梨北農業協同組合長賞」、「山梨県農業共済組合長賞」、「中北農務事務所長賞」が贈られます。

美味しいと評判の「梨北米」、その中で、今年の「米作り名人」は誰なのかが決まります。



「成分分析機で審査中」

ブドウ棚を活用した電気柵「柵用獣堀くんライト」の現地実証



設置後の様子

「柵用獣堀くんライト」は、ブドウなどの棚を活用した電気柵で、柵の主線を支柱として、電線を配置することで、低コストで多獣種に対応することができます。今年度、峡東地域普及センターでは山梨市のブドウ園において現地実証圃を設置し、効果の確認を行いました。実証圃では、昨年はイノシシの被害が発生しましたが、今年は7月下旬に設置したところ被害に遭うことなく収穫を終えることができました。

また、JAフルーツ山梨及びJAふえふきの営農指導員を対象に現地研修会を開催し、設置方法の概要、効果等を説明しました。

今後もJAと連携しながら、継続して実証圃を設置し、効果の確認を行い、鳥獣害防止対策に向けた支援に取り組んでいきます。



現地研修会の様子

柵用獣堀くんライトの作り方資料を、総合農業技術センターHPに紹介しています。次のアドレスを参考としてください。
<http://www.pref.yamanashi.jp/sounou-gjt/documents/tanasaku.pdf>

試験研究 成果発表会のおしらせ



■総合農業技術センター

日時 ●平成29年2月21日(火) 13時15分～
会場 ●甲斐市双葉ふれあい文化館

■畜産試験場

日時 ●平成29年3月8日(水) 13時30分～
会場 ●畜産試験場

■果樹試験場

日時 ●平成29年3月2日(木) 13時15分～
会場 ●山梨市民会館

■酪農試験場

日時 ●平成29年3月7日(火) 13時00分～
会場 ●酪農試験場

※荒天などの事由により日時が変わる場合がありますので最新の情報をご確認ください。

あけぼの大豆の産地維持・発展に向けた支援

身延町では、特産品である「あけぼの大豆」による町の活性化を目指して、「あけぼの大豆振興協議会」が本年3月設立されました。

協議会では、生産者、JA、商工会、町が一体となり、「あけぼの大豆」の更なるブランド力強化に向け、優良種子の確保、品質向上、6次産業化の推進など「あけぼの大豆」を柱とした地域の活性化事業に取り組んでいます。

峡南地域普及センターでは、この取組みについて、本年度より普及活動計画に位置づけ、産地の維持・発展を目標に支援を行っています。

今年度はこれまでに、たい肥施用による地力向上対策、施肥体系の見直し、実証圃設置による収量向上に向けた検討、近年連作により問題となっている立枯れ症状(白絹病等)の発生要因調査及び薬剤の効果確認、土壌分析などの支援を行っています。

また、優良種子確保のため栽培実態調査や先進事例研修の開催支援なども実施してきました。

今後も身延町あけぼの大豆産地の発展に向け、関係機関と連携しながら支援を行っていきます。



えだめ品質・収量調査



優良種子確保に向けた研修会

売れる野菜づくり、本格スタート！



オープンの賑わい

平成28年11月5日、県内20番目となる「道の駅つる」がオープンしました。この道の駅は、郡内地域を中心とした産地交流の場として位置づけられており、運営会社は道の駅つる生産者組合と連携し、都留市の情報発信と都留周辺地域の地産地消の拠点となるよう取り組んでいます。

中心となる農林産物直売所は、新鮮かつ安全・安心な農林産物の品揃えと親しみやすい売り場環境を構築

することで地元へ愛される施設を目指しており、農家所得の向上と農業農村振興の一助となることを期待されています。

普及センターでは、これらの実現に向けて計画初期の平成26年11月から都留市と連携し、品目の充実や品質向上を目的に市内生産者を中心とした技術向上を支援してきました。講習会では座学による基礎知識と技術実習を組み合わせ、月1回のペースにより本年10月まで計24回の講習会を支援し今日に至ったところです。

今後は「売れる野菜づくり」の実践活動を通じ、栽培の効率化や更なる品質向上を進めるとともに、魅力ある売り場づくりや安全・安心の確保まで含めた幅広い支援を行う予定です。



直売所オープン



農産物の陳列状況